

# 令和3年町長施政方針

令和3年奥出雲町議会定例会の施政方針演説の内容を広報奥出雲3月号で一部抜粋して掲載します。



## 1. 最近の情勢

全国においては、再度の緊急事態宣言が一部地域で発せられるなど、依然として新型コロナウイルス感染症の終息が見えない状況が続いています。GOTOトラベルの停止などにより、町内事業者、特に飲食業や旅館業などを中心に消費が落ち込んでおり、大変厳しい状況にあります。こうした状況が長期に及んでいることを踏まえ、国・県などの対策を見極めつつ、引き続き町内経済の回復に必要な対応を行って参ります。

一方で、ワクチン接種の準備が進むなど明るい兆しも見えて参りました。4月以降、65歳以上の高齢者の方、次に基礎疾患のある方及び高齢者施設などの従事者の方、そして一般の方と順次ワクチン接種を行う予定です。

本町においても町民の皆様は、安心してワクチン接種を受けて頂けるよう、また、円滑な接種が行えるよう、3月1日付けで健康福祉課内に「新型コロナウイルスワクチン接種対策室」を設置し、町立奥出雲病院、町内開業医の先生方の協力を頂きながら、準備を進めて

います。

今後、町内の高齢者の皆様へ接種券を送付する予定ですので、接種を希望される方は、併せてご案内する方法により、接種の日時、場所をご予約頂きますよう皆様のご理解とご協力をお願い致します。なお、ワクチン接種は、全て無料で実施されます。

## 2. 総合計画

第2次奥出雲町総合計画については、12月議会において中間報告をしましたが、その後も、幹事会、策定委員会、審議会などでの議論を経て、2月17日に審議会の会長より答申を頂戴しました。これを基に、町民の皆様に対してパブリックコメントを実施したところ

です。目指します奥出雲町の将来像「つながりで築く幸せと笑顔あふれるまち奥出雲町」について、近年、社会情勢の変化により、近所付き合いや地域コミュニティの希薄化が進んでいます。町民の皆様と行政の協働、町民の皆様一人ひとりの活躍が、重要視される時代となっており、地域力の更なる向

上が求められていると考えています。

そのため、まちづくりの主役である町民の皆様や、暮らしの場である地域の主体性と多様性を残しつつ、世代や地域を超えて、まちづくりを自分事と捉え、知恵を出し合いながら、まちづくりに参加できるよう「ひとづくり」「居場所づくり」「仕組みづくり」を進めて参ります。

そして、町民の皆様が自分自身はもとより、仲間や地域が持つ可能性にチャレンジし、自分らしくいきいきと暮らしている町を目指し、町民の皆様にとって「住み続けたいまち」、町を出た人や町外の人にとつて「帰りたい・住んでみたいまち」「気になるまち」関わってみたいまち」になれるよう全力で取り組み覚悟です。引き続き、ご理解とご協力をお願い致します。

## 3. 予算の概要

令和3年度当初予算については、第2次奥出雲町総合計画の推進と健全な財政運営の両立を図りつつ、新型コロナウイルス感染症への対応も行っていくための予

算であり、総額は135億6千万円で、令和2年度に対し0.1%、2千万円の増加となっています。

予算編成に際しては、1つにポストコロナ、ウィズコロナを念頭においた対策を講ずる。2つに第2次総合計画を踏まえた施策を講ずる。3つに普通交付税の段階的縮減など歳入が縮小していく中で、既存事業の見直しと点検を講ずることなどを編成方針として掲げました。

令和2年度補正予算については、奥出雲病院への操出金1億900万円、ふるさと応援寄附関係経費3,000万円、除雪経費に2,000万円などの増額、中山間地域等直接支払交付金事業7,200万円、事業継続支援交付金4,500万円、地籍調査事業3,400万円などの減額により、総額約1億5,500万円を減額しております。また、道路新設改良事業など総額約5億5,200万円、17事業を繰り越すこととしています。

## 4. 社会基盤・生活基盤整備

生活道路整備事業については、

町道郡三成線、高尾線、亀ケ市線、蔵屋福頼線など11路線について、引き続き改良整備の進捗を図り、この内、角川端線については事業完了を目指す考えです。

また、落石等の災害防除対策や、町道施設の長寿命化対策として、橋梁及び舗装や道路法面の修繕についても、引き続き国の防災・安全交付金などを活用し、これまでにを行った点検調査結果に基づき、年次計画を進めて参ります。

除雪機械施設整備事業として、下横田除雪基地に除雪車格納庫を1棟増築致します。

また、地元からの要望が多い河川浄化事業についても、現地を調査し、緊急度の高い所から年次計画により堆積土の除去を実施して参ります。

公園施設整備については、長寿命化計画に基づき、横田公園の管理棟及びテニスコートの改修事業を行い、公園機能の回復や充実を図ります。

また、県事業の推進については、継続事業の早期完成や新規事業の導入に向けて、引き続き国・県への要望活動を行って参ります。

上水道事業については、施設の老朽化解消のため、横田配水池耐震化事業を実施すること致しております。将来の負担に留意しながら、順次施設の更新・整備を進めて参ります。

下水道事業については、合併処

理浄化槽の設置を10基計画しているほか、施設の長寿命化を図るため、農業集落排水施設の機能保全対策を継続して実施します。また、公共下水道については、ストックマネジメント計画に基づき施設の調査・更新工事の実施、横田地域の公共下水道と農業集落排水施設の統合に向けた取り組みを進めて参ります。

情報通信インフラ整備については、ケーブルテレビ事業の中心となる施設の設備や、加入者宅に設置してある機器について、計画的に更新を進め、令和3年度は、約1,900世帯の設備更新を計画しています。

雲南圏域における次期可燃ごみの広域処理施設整備に向けた検討については、令和2年度から雲南市・飯南町・奥出雲町の3市町が連携して取組んでいます。現在、飯南町地内を予定地とした、民間事業者によるごみ処理施設の整備計画が立てられています。このため、令和3年度はこの基本構想に加え、民間連携の可能性調査も実施し、調査結果を踏まえながら費用面やサービス面、スケジュールなどを比較・検討し、雲南圏域にとつて最もふさわしい方法を選択して参りたいと考えています。

ごみの最終処分場施設については、現在の処分場の残余容量が、令和9年度から10年度にかけて満量となる見込みであるのに加え、粗

大ごみ処理施設も稼働後22年余りを経過し老朽化が進んでいます。こうしたことから、令和3年度に基本構想を策定し、令和9年度稼働を目指した最終処分場・粗大ごみ処理施設の更新を進めて参りたいと考えています。

## 5. 産業振興

水稲については、全国の令和3年度産米の適正生産量が、令和2年度産米と比較して約30万トン減の693万トンとなったことを踏まえ、令和2年より約25ヘクタール少ない1,423ヘクタールの主食用水稲作付面積を目安に決定しました。引き続き、「仁多米」の安定した作付けを推進するとともに、転作の活用も含めた水田の活用と産地化を展開して参ります。



第22回米・食味分析鑑定コンクール国際大会で金賞を受賞したみなさん

農業の後継者対策については、認定農業者の育成・集落営農組織の法人化を推進していくほか、県の事業を活用した就業パッケージで新規就農者の募集を関係機関、研修受入農業者と連携し支援を強化して参

ります。

特産振興については、国営開発畑を中心に栽培されるソバやエゴマ栽培の推進、生産組織・生産者の拡大による産直施設への安定供給や学校給食への提供も推進して参ります。

畜産振興については、令和4年に開催される「第12回全国和牛能力共進会」で、今後の和牛子牛価格と畜産農家の増頭意欲につなげるため、奥出雲和牛を全国にPRできる絶好の機会として上位入賞を目指します。併せて「肉用牛優良繁殖雌牛の保留・導入対策」に積極的に取り組み、県・J・A・和牛改良組合の皆さんと連携して取り組んで参ります。

酪農振興については、優良育成牛の導入助成と和牛受精卵移植を推進し、酪農経営安定のための支援を行って参ります。

世界農業遺産認定に向けた取り組みについては、世界農業遺産認定申請に向けての国内承認を得ることができましたので、申請書を英訳し、FAO国連食糧農業機関に認定申請を行います。

また、日本農業遺産の認定を活かした取り組みについても、農業体験や滞在型観光に向けた「農泊」横田高校生による「奥出雲学」や小中学校でのふるさと学習、町内でのパネル展示などで情報発信をさらに推進することで、「日本農業遺産認定」による認知度向上と